『警察や地域の取組みに感謝』

群馬県

安中市立松井田北中学校　一年

　五月三十一日、安中警察署と群馬県警察本部の方が「命の大切さを学ぶ教室」という授業をして下さいました。授業では、突然事件に巻き込まれ、子どもを亡くした家族の苦悩を描いた映画を観ました。その映画では、被害者の家族が一時的被害に加え、メディアなどによる二次的被害に苦しむ様子が描かれていました。僕は、観ていて胸がとても苦しくなりました。そこには、家族を失って深く傷ついているのに、メディアに質問を浴びせられて更に深く傷つく家族の姿があったからです。さらに、近所の人達がその家族に向かって「子どもがもう一人残っているから良かったね。」とか、「亡くなった子どものことは忘れて、残っている子どものために頑張りなさい。」などと声かけをしていたことにとても怒りを覚えました。被害者家族を思っての言葉かも知れませんが、その家族の気持ちを考えずに更に傷つける言葉をかけていたからです。その家族は、現実を受け入れられない日々がずっと続いていました。それでも警察の方の支援やカウンセラーさんの力を借りて少しずつ前に進もうとしていました。僕は、この授業で警察が被害者家族をサポートしていることを初めて知り安心しました。

　以前、僕は新聞で「母を亡くした大学生が白バイ隊員になった。」という記事を読んだことを思い出しました。その大学生は十年前、関越自動車道で起きたツアーバスの事故で母親を亡くしました。やり場のない悲しみが続く中、その大学生の支えになってくれたのは群馬県警察でした。「一生かけてサポートするから。」と言ってくれた警察官もいて、とても親身に寄り添って支えてくれたそうです。その後、その大学生は、群馬県警察の白バイ隊員になりました。そして現在では、交通事故を未然に防ぐため交通取り締まりにあたっているそうです。

　今回授業を受けて僕は、今、命があって無事に生活していることは当たり前のことではなく、犯罪を防ぐために様々な取組みをしている警察や地域の人達のおかげであると改めて理解できました。僕は、事件や事故に巻き込まれて命を落とす人やそれを悲しむ人がいなくなる社会になることを願っています。